

第2次安曇野市観光振興ビジョン第6回策定検討委員会議事録

- 1 会議名 第2次安曇野市観光振興ビジョン第6回策定検討委員会
- 2 日時 令和5年1月12日 午後1時30分から午後3時まで
- 3 会場 安曇野市役所 本庁舎3階 共用会議室 305
- 4 出席者 尻無浜博幸委員（委員長）、宮田弘康委員（副委員長）、丸山君恵委員、
加藤進委員、仙石弘子委員、衛藤悦郎委員、小岩井清志委員、中村梢委員、
白澤勇一委員、中澤美穂委員、西山直美委員、青柳靖決委員（12名中12名）
- 5 アドバイザー 長野県観光機構金子孝明、石川淳也、三井猛司
- 6 市側出席者商工観光スポーツ部 観光課下里課長、高野係長、由井係長、小林係長、丸山係長
延本主査、第一企画株式会社
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴人 1人 記者 0人
- 9 会議概要作成年月日 令和5年1月26日

協 議 事 項 等

1 開会（副委員長）

2 委員長あいさつ（委員長）

- ・ 新年最初の会ですので、今年もよろしくお願ひしたい。
- ・ 第2次安曇野市観光振興ビジョンを策定するというこゝで昨年来、6月から約7か月かけて議論いただいた。ご案内の通り今日が第6回目としてファイナルの会議とさせていただきます。これまでの私どもの議論の集大成として、また新しく議論した方向性が具体的に展開していくという、この委員会としての役割を全うすることができたらと思っている。本日も限られた時間ですが、よろしくお願ひしたい。

3 議事

〈委員長〉本日の議事に入る前に、前回第5回委員会では出された意見の対応について確認をしたい。

●「資料1 第5回策定検討委員会での意見等への対応」について説明（事務局）

- ・ 特に前回ご意見を頂戴した中で、指標の関係でKPIの項目が多いというご意見を頂戴した。このことを受け、事務局で指標の内容等を精査し、おおむね基本戦略ごとに大体1項目の指標という形で絞らせていただいた。また、精査に当たっては、現在取っている指標、数値等の中で把握できる内容とした。内容につきましては、本日お配りしました冊子にも反映している。詳細については、資料1の別紙に記載の通り。

(1) パブリックコメントの実施結果について

●「資料2 第2次安曇野市観光振興ビジョン（案）への意見と回答」について説明（事務局）

- ・ 資料2のパブリックコメントの一覧。それとお配りしました冊子を使って説明する。
- ・ まずパブリックコメントについて、11月28日から12月28日までの1か月間実施し、6個人、1事業者の方から36件のご意見を頂戴した。A、Bで記載してあるのがそれぞれの個人また事業者の方、ページにつきましては、冊子に該当するページということで、それ

協 議 事 項 等

に基づいていただいた意見の要約を掲載させていただいている。資料2の右の欄は、それに対する市の対応、考え方を掲載している。

- ・色々なご意見を頂戴した中で、観光以外の部分についてご意見を頂戴したものについては、所管の部署の計画等の説明を進めた中で、市の考え方を示したという形になる。
- ・この中で特にビジョン計画の記載に関わってくるものについて主に説明する。一覧の1ページ目の3番。冊子は10ページ。東山の活用につきまして主要の観光スポットとして追加してはどうかという意見がありました。これに対し冊子の10ページの山岳観光の部分に、長峰山や光城山の活用について観光資源という形で記載いたしました。現在市におきましても東山の活用、また将来的な西山の登山人口、そういったものを想定したり、あるいは、明科地域が過疎地域に指定されたことによって、こちらの活性化というところで、全庁を挙げて取り組んでいるところ。意見を反映したものになる。
- ・次に2ページの5番と8番。5番の東山、5番、8番については二次交通等を踏まえて駅を起点にした視点のあり方ということで意見を頂戴した。こちらについては冊子の14、15ページ。安曇野市の観光産業の課題というところで課題の抽出の中で、東山、また駅を起点にした周遊観光というところを載せさせていただいた。
- ・それ以外につきまして、特に記載の部分は無いが、観光地経営のあり方ということでDMOまた現行の観光振興ビジョンで観光の推進体制ということで、プラットフォームの記載のところでご意見を頂戴しているところがある。こちらについては、実際の施策の中に観光地経営、またその中でDMOの検討という項目があるので、そちらで展開を図ってまいりたいと考えている。

〈委員長〉ありがとうございました。約1か月のパブリックコメントを募集したところ、事務局から説明のあった通り。36件ですので、解釈の仕方によってはかなりの数をお寄せいただいたのかという感じがしている。特にここでは寄せられたコメントに関して、市の回答の考え方が右側に示されていますけれども、その対応が適切かどうかということでご意見いただきたい。

〈委員〉私が当初から提案させていただいていたのが、二次交通の部分。具体的にバスやタクシーが、中房温泉に行く定期便はあるけれども、一ノ沢や三股に行く定期便がないので、せっかく北アルプスに来る方たちの足がどうしても偏っているということで、意見と提案をさせていただいた。これは利便性向上を目指しますという、38ページの回答の中に含まれているのかな、と思ったので手を挙げさせていただいた。パブリックコメントを見た時に、山にすごく詳しいという方が、多分いらっしやらないのかなと配読して感じたので、一パブリックとして、意見をしました。

〈委員〉7の項目のインバウンドの再開とありますが、今まさに円安で、テレビを見ている、外国からのお客様が続々入ってくるっていうような感じもしている。コロナも緩和されてきていますので、この市の回答コメントには、「今後の施策展開の参考にさせていただきます」とありますけれども、まさにすぐやっていただきたいような項目だと思う。

〈委員〉2番ビジョンコンセプトで「表紙にあるビジョンがよく分からない」「全体はよく見えない」「もっとみんなにわかりやすい言葉にもした方が良い」に全く同感。パブリックコメントなので、率直な言葉だと思う。第3回の策定委員会にて私のビジョンコンセプト案を

出ささせていただいた。議論・決定後ということで議論に及ばなかったが、ビジョンコンセプトは大変重要な議論の内容なので各委員からの十分な議論がなく残念に思う。

〈委員長〉決定に関してはちゃんとお尋ねをして、よろしいですかと確認をして1回目、2回目、3回目と来て、進行上確認してきたところ。今日で委員会は終わりですので、そういうコメントが最終的にあったということを残して終わらざるを得ないのですが、よろしいか。

〈委員〉分かりました。

〈委員〉9番についてです。京都なんかだと観光客をおもてなしするというイメージがあるんですが、安曇野市の場合はなんとなくですが、家族の帰省とか、お友達を呼ぶような感覚でおもてなしする方が多かったり、話し合ってきた中でもそういうコンセプトなのかなという気がしている。家族とか友人からお金を貰いづらいという感じで、「いいよあげるよ」というようなおもてなしのイメージがある。例えば野菜をよくいただきますが、その時に料理を作っておもてなししますね、というような気持ちで、快く観光客の方なり、地元の方がお金をお支払いいただくというようなイメージの観光というか、そうするとうまくいくのかなというような想像で、この地域に暮らすように旅をするし、旅するように暮らす感じで、皆さんイキイキと過ごせるのではないかという印象を受ける。観光課の方としても、例えば企業や銀行、スーパーなど、そういったところに観光という文字がスーパーのついでに目に入るとか。SNSも良いですけど広い世代の方に情報を発信して欲しい。気になっているのが、アンケートで高齢だからもうアンケートを送らないでくださいと言われたのが引っかかっていて、そういう方も積極的に、外に出てどこかに行ってみようかなと思えるような。インバウンドもそうですけど、地域は地産地消的な外に観光に行かなくても案外良い収入になるような気がする。宿泊施設やお店などいろんなところへ行って聞いたりしてみた中で、そう感じた。

〈委員長〉最後に今日までの意見を踏まえた上で、最終調整をして成案になりますので、本日出された委員の意見は留意させていただきたい。

〈副委員長〉「外貨」というのは、第1次の観光ビジョンの方から出てきた言葉で、要は観光に従事される方たちプラスになるような観光振興をというのがあったが、それではストレート過ぎるという話もあり、コンセプトについては第2回の会議でこういった形になったかと私は記憶している。

〈委員〉4番の山についてですが、私はやってきてからハードルが高すぎて北アルプスにはまだ挑めていないが、大町や白馬の方まで行くと多分全部の全体像が見られない気がする。おひさまの道のところからだとほぼ全部、今日は全体が見えて、そういうところは多分、安曇野市だと思うので、そういうPRの仕方もあって、そこから登ってみようとか、長峰山から見ると登ったらすごく綺麗に見えると思うので、そういうアピールの仕方がある気がする。山だったらマジックアワー。あれはまたと無い、2度と無い気がして、ご飯を食べながら見るとか、食べてから見るとか、季節によって違うと思う。冬の山が本当に綺麗なんで、それを冬は締めてしまうのはもったいない。若者は帰りに必ず寄って、イルミネーションを楽しんでいくとか、そういうものがあつたら良いと思う。私は冬だけは電車で観光に来ていたものですから意見した。

〈委員〉25番、イベントによる観光交流人口の拡大で、意見として出ているのはイベントによ

る交流人口の拡大は時流に合っているのではないかということ。要はイベントで観光客を呼び込む、増やすというイメージで、この方は捉えられていると思う。実際イベントというのは商業的なもので、それで安曇野を知っていただいて、後に繋げるということが、イベントの元々の見方だと私は思う。冊子の45ページになると思うんですが、その表現を、イベントをすることによって、46ページのところが大事なんだと思う。リピート率の向上、どれだけ回誘するかとか、そこに焦点を当てた方が良かったんじゃないかと思う。新規のイベントをたくさん創出するというイメージで、どうも見られていると思いますので、その辺の誤解が無いように確認しておいた方が良いのではないかと思います。

〈委員長〉ありがとうございました。ポイントとしてはこのイベントのあり方を、商業から次に繋げるポイントとして活用するというのを、今のご意見から学ぶとさせていただきたいと思う。

〈委員〉14番の天蚕について、天蚕センターに初めて行って見て、そうしたら夏休みに小学生の方がすごく多いという話を聞いた。例えばくによくにゃキーホルダーでこんな感触のものを使って自由研究に持っていったらどうかとか、大きなオブジェなどは写真を撮ると、そういうのは絶対SNSに出したくなるので、感触すごいよみたいな話題になったら、すごく良いと思う。

〈委員長〉ありがとうございました。ご意見をマークさせていただきます。パブリックコメントに関しては、以上のような観点で審議をしたとさせていただけたらと思う。ご意見を今後活かしていけたらと思う。

(2) 第2次安曇野市観光振興ビジョン（案）について

● 「別添資料 第2次安曇野市観光振興ビジョン（案）」について説明（事務局）

また、ビジョン策定までの流れ、周知方法について説明（事務局）

- ・先ほど委員の皆様からいただいたご意見につきましては、こちらの方で整理しまして、反映させていただくところ、文言の修正もしくはレイアウト等で、市民の方、事業者の皆さんに分かりやすい形にするなどの方法を検討いたしまして、最終のものに反映させていただければと考えている。なお冊子の方は、まだ未定の段階になる。今後市長の挨拶、最終的な内容以外の誤字あるいは図表等の精査も含めまして確認して、製本に持っていきたいと考えている。スケジュールは、そういったものを整えたのちに2月中に市長の方に報告いたしまして製本。また3月議会に合わせまして、市議会に報告をさせていただく予定。また周知については、冊子、広報あづみの、安曇野市ホームページ等に掲載予定、計画自体は4月1日からの施行という予定になっている。なお、こちらの冊子の方につきましては完成しましたら、各委員の皆様の方にも送付させていただき、ご確認いただくような形を考えている。また、関係する観光協会様、商工会様、JA様等、関連する団体の皆様にも配布予定。また、一般の市民の方には、まず市のホームページで情報を提供する。また広報あづみのについては、総合計画、またその他の計画等も色々あるため、5月頃に計画の概要等が掲載できればと考えている。

〈委員長〉ありがとうございました。今ご説明のあった通り。これまでの議論を積み重ねて、このような形で2023年度から向こう10年間活用をしていきたいという、そういう振興ビジョンですので、今後の観光振興の方向性を示す骨格になってくると思っている。そういった意味ではコンセプトや柱は非常に重要になってくる。その辺から見ると、手元の資料

20～23 ページでコンパクトに記載があり、それ以降の第2章のアクションの中で具体的な指標で説明がなされている。私どもの議論の成果物にということで、ここで積み重ねた議論も反映された形での最終案として確認できた。最後に順番に委員の皆さんからコメントをいただいて本日の会を締めさせていただけたらと思う。

〈委員〉1番最初に出していただいた資料と比べたら、本当に見やすくて、分かりやすくなったと感じている。また、私自身もこの会議を通じて改めて自分の住んでいるところを振り返る機会になったので、こういうものを市民の皆様が見て、改めて自分の住んでいる観光地だからこそもっと良くしようということに繋がるのも、1つの出発なのかなと思っている。私も生活の中で一市民、また一観光客として、安曇野市を楽しんでいきたいと思う。

〈委員〉安曇野市は松本と白馬に囲まれていて、通過点にしかならないような感じがずっとしていて、日帰りで立ち寄るには良いけれども、やはり白馬の方とか松本の方へ行ってしまう。これをどうにか、安曇野市に来て欲しいということで、やはり素晴らしい山もありますし、田園風景、また、安曇野市が長野県で1番の米どころということも聞いている。拾ヶ堰が世界遺産なので、そこを加味してもらって、観光地ブランドの確立の中にわさびや信州サーモンのついでに拾ヶ堰も取り入れていただきたいと思う。また、フィルムコミッションで、この間『太陽とボレロ』を見た。とても素晴らしかった。市役所の4階から撮った風景がすごく綺麗でして、また市役所を使ったロケでしたが、すごく感動した。本当に上手にやれば観光客がたくさん訪れてくれるところだと思うので、ぜひこれからもよろしくお願ひしたい。

〈委員〉冊子として見るとなかなかよくまとまっているなど感じている。私が感じていることは、これは10年間前期と後期ということで、10年間を見通してのプロジェクトだと思うが、果たして10年目が果たしてどのような安曇野市になっているのか。今回のコロナのような予期せぬことが起きることもある。安曇野の良さが10年後も引き続き認められて、観光地としてさらに良くなっていくことを願わずにはいられない。最近の新聞の記事で、安曇野市の人口について見た時に、移住者が増えているのを見た。それはやはり安曇野に観光に来て、安曇野って良いところだなと思うことが移住したきっかけの1つになっていると思う。その安曇野の良さっていうものがさらに広まっていけばいいな、というのをすごく感じた。

〈委員〉先ほど、第1次の観光振興ビジョンのお話がちょっと出ましたが、私も第1次の観光振興ビジョンに携わっていた1人。その第1次の観光振興ビジョンが、あまりにもイメージ的な要素が強すぎて、そのビジョンを観光関連事業者、あるいは来ていただく観光客の方が目にした時に何が書いてあるのかよく分からない。あるいはどうやって動けば良いのかよく分からない、どうやって施策を作ったら良いのかよく分からない、というようなことから脱却しようということで、今回の第2次の観光振興ビジョンが策定されたものと思っている。そういったところから見ると、どう動けば良いのかということが、第1次に比べてすごくよく分かりやすくなったと思う。観光関連産業に携わる人は、そういったものが無いと、市の施策としてどういうところに向かっているのかが分からない。結局自分の経営の主観になってしまい、大きな目標を見失ってしまうというところがある。そこを定めようとしたものが、この第2次だと思う。第2章のアクションプランから10年プログラム、そして観光推進体制の推進というところが、今回このビジョンによって見えてきたか

な、と思っている。10年という長いスパンではあるが、やはり観光というものは非常にスピード感をもって対応しなければいけない部分があるので、その中で常にこの観光振興ビジョンや、あるいはアクションプランで顧みながら、その時代時代にあった施策を作っていたら、と思っている。そういう意味では、この中に掲げられていることは非常にハードルの高いものもあり、すぐには実現できないものもあるが、逆にすぐ着手できるようなものもあると思う。そういったものを1つの目安としながら、観光に携わる人がこれを見ながら、どう動けば良いのかということの1つの指針となるものにまとまったと思っているので、ぜひこれを実践できるような推進体制を作りながら進めていければと思う。

〈委員〉大まかに全体像としてのビジョンが見えてきたのかなとは思いますが、ただ、やっぱりパブリックコメントでも見えているなと思うのが、2次交通の課題はやはり、皆様ご存じの通り、観光客が来にくい、観光客が山岳登山に限らず、いろんな観光をするにあたって、不便だと思うところは、今回のパブリックコメントを見る限り、その数は多いのではないかなと思う。食文化も景観も非常に良いものを持っているというのは、私もすごく感じていて、食材1つとっても東京の有名な店が取り寄せるほどの価値を持つ食材であったりとか、それぞれ力のある方がここでロケをしようと思うほどの景観という魅力がある一方で、滞在がしにくいとか、交通の便でも来にくいという部分は課題なのかなと思う。これを今後どうやって考えていくかなのかなと思っている。これは今後どうしていくかっていう話し合いの中で決めていくとは思いますが、全体像としてはすごくいいが、ただこれを何か1つ、2つ、3つ、4つと、こう叶えていくにあたって、何を大事にしていくかっていうのは、本当に詰めた方が良く思う。交通の便を特化させるのか、来た人の滞在を大事にするのか、一方で宿泊に限らず住民の人の連携を大事にするのか。これも細かいところをどんどん詰めていかないと、最終的に実行に移すまでにこの先10年の話かもしれないが、ある意味ではスピード感を持っていかないと、10年でこれで実行したと思ったら、実はもう世界の動きは変わっているかもしれないと考えると、少し危機感を覚えるところもある。なので、このビジョンを元に次回以降どう詰めていくというのが課題だと思いながら、もう少し資料を読み込んでいきたいと思う。

〈委員〉パブリックコメントの表の見方で提出件数が37件で、そのうち7個人とその他が事業者という意味だと思うが、36しか無いがどうか。それと個人と事業者の数は分かるか。昨年だったと思うが、安曇野市は恋人の聖地サテライト登録という話があったかと思うが、サテライトの意味が曖昧。いわゆる安曇野市を恋人の聖地とする情報が昨年あった。それはストーリー性が非常にあると思う。冊子を拝見していると、恋人の聖地という文言が無い、間に合えばストーリー性があるということで、全体をまとめる1つのキーワードになってくる気がしたので検討いただきたい。

〈事務局説明〉意見数は正しくは36になる。また、お寄せいただいた7個人・事業者の内は、6人の個人の方、1つの事業者。ご質問のあった恋人の聖地については、静岡にある少子対策等をやられている法人の方から恋人の聖地という場所で、自治体と公共団体の所管している施設等、あるいはそういった場所等が恋人の聖地となっている。一方、そうではなくて、民間事業者のものについては恋人の聖地サテライトという形で認定している。今回、穂高神社がいわゆる民間の団体として、恋人の聖地として認定を受けたということで、恋人の聖地サテライトという形で安曇野市の中で選ばれた。民間事業者という形になるので、

観光協会等と連携しながら、主要な観光資源でありますので市としてもバックアップしていくところになりますが、市の計画としては、その部分の取り組みについて記載することは難しいと考えている。今回選定の基準の中で双体道祖神が基準になったという話を伺っている。地域に点在するものと穂高神社、そういったストーリー性を市のイメージアップ、発信、誘客等につなげていけるのではと考えている。

〈委員〉 これを作ることによって、今までの問題点がクローズアップされて、それをどういう風に解決していこうかという事項を整理できたのがとても良かったと思っている。今後、こういったコロナの問題もあって、今までの観光のあり方が急激に変わってきて、インバウンド、インバウンド言っていたのが来なくなったり、アドベンチャーツーリズムをやらうだとかサステナブルツーリズムだとか、もうどんどん変わっていく。先ほどの皆さんの意見の中で出てきたと思うが、10年間でというのは、一応作ったが、常にその辺を精査しながら、変わってきたことを協議しながら、変更を加えていくとか。これに書いてあるから、絶対やらなきゃいけないという問題でもないと思うので、臨機応変に、これに従ってやっていくのですが、その辺を見ながら柔軟に対応していくのが重要だと思うので、そのように私もやっていきたいと感じている。冊子の11ページのところの地図について、民間の事業者が載って良いのかと、もしかするやめちゃうことがあるかもしれないのに載せていても良いのかと、また他のところは載せなきゃいけないのか、とかいう問題が出てこないかと思って気になった。

〈委員〉 やはりスピード感というのはすごく大事ななと思っている。これだけの資料をまとめていただくのもすごく大変なことだったと思うし、議事進行をしてくださった本当に委員長さん、副委員長さん大変だったと思う。ただやはりこれからは、ある程度トリアージが必要になってくると思う。優先順位を付けて、これはすぐできるという項目、あるいはこれは長期だから今回の議題からは外して、すぐにできるものの話をしようとか、そういう感じで、トリアージをしていかないと、これだけの項目を毎回平行に意見を聞いて進めていくというのは、すぐに決まるものもあるかもしれないし、時間がかかってしまうという印象があるので、これ以降は優先順位的なものを考えて、進めていただけたらと思う。山のガイドもシティのガイドも英語でできるということで、色々お仕事をさせていただいているところ。この前、大町の方に仕事へ行った時に、大町の方は安曇野のことをすごく羨ましがっていて、私にしてみたら、大町の方がすごくいいコンテンツがいっぱいあるなと思うが。安曇野という響きがすごく素晴らしくて素敵だということで、すごく羨ましいということをお願いした。私もやはり、安曇野の中には、たくさん素晴らしいコンテンツがあると思うので、拾ヶ堰も、本当に素晴らしい観光資源だと思うし、20年もかけて湧き水が来るとか、本当に素晴らしい地形に恵まれているところだと思っているので、これからも一ガイドとして、また、一ゲストハウスのオーナーとして、関わるゲストさん、クライアントさんには安曇野の素晴らしさを今まで以上に伝えていきたいと思う。

〈委員〉 これが最後ということで、年6回の限られた回で、1時間半の限られた時間でできたビジョンかなと思う。このビジョンを実行いただいて、観光消費額を増やす、滞在期間をより長くする、宿泊をより増やすと、こういったものに結びついてくれればいいかなという期待でいっぱい。くれぐれも、絵に書いた餅、画餅にならないようよう期待している。

〈委員〉 この委員会に参加させていただいてから、まち歩きの視点も変わり、行った先でこの

委員会に話を出して深い話もできるようになったりして、本当に良い経験をさせていただいた。皆さんの思いが熱すぎて、地元が太平洋側の海辺ですが、そこでも私よりも詳しい人がいっぱい出てきて驚いてしまったぐらいで、そんな熱い思いを私が受け止めきれなくて取り止めのない発言をすると、委員長が上手くまとめていただきましてありがとうございました。今度、もしまたこういった機会があったら、委員長も委員のお1人なので、たくさんご存じの気もしますし、ご意見もあると思うので、次回があったらすごく聞きたいと思っている。交通の面で上高地は今、駐車場のお金を払ってバスで行ったり来たりしていて、それも結構の金額だと思うけど、どなたも快く行っているの、その辺に交通の何かヒントがあるのではないかと考えて答えを出せずに終わってしまった。朝のこのロゴは、ポスターにして額にして大きいものを見やすいところに並べたり、色々工夫している。店にも貼ってあって、改めて朝が普及しつつあるのではないかなという個人的な感想を持った。私は良いロゴだと思うので、ぜひ引き続き何かできたらいいと思う。個人的には、これから、わさび漬のレシピをちょっとインスタにあげて、自分でわさび漬のマップを作ってみたいなという気持ちになった。

〈副委員長〉 どうもお疲れ様でした。これまで6回の会議で皆さんにご討議いただきまして作り上げました観光ビジョンというのは、あくまでもこれから10年間安曇野でどうやって観光をやっていけばいいんだろうという、あくまでも指針でありまして、先ほども話がありましたように、観光というのは本当に生き物で、今インバウンドと言っていて、中国は今度ビザを発給しなくなって日本からビザが発給されないから行けなくなって、今度、日本の方も報復なんていう話になってくると、1番たくさん来ている中国の方が、また来れなくなるとか。本当に生き物で明日が分からない、明後日が分からないっていうところ。今回の観光ビジョンの素晴らしいところは5年間という期を切って、2シーズンに分けてアクションプランを作ってやっていくということで、これはもう大きな進歩ではないかなと思っている。また1番問題になったのがプラットフォームの関係で、どこが本当の推進体制の主観主体になっていくかということが非常に問題になってくると思う。また、そこに対して実施してきた内容についての評価を、何年に1回ではなくて、毎年実施できていけるかということも非常に大切なことだと思う。観光は生き物ですから、そこでの反省を生かして、翌年に、または翌シーズンに活かしていくような形が、繰り返していけるようですと、安曇野の観光も今までにないものになってくると思っている。本当に、皆さんからご討議いただいて、作り上げたこの観光ビジョン自体、まだ素案の段階ではあるが、その段階としては非常に良くできているのではないかと考えているので、またぜひ正式なものができたら皆様方のお手元に行くと思うので、ぜひご確認いただいて、皆様方もこれを作ったんだということ、胸の中に置いていただいて、誇りに思っていて、これからの安曇野の観光について見守っていただければと思う。

〈委員長〉 最後ということで、私からも一言コメントさせていただけたらと思う。思い返せば、ビジョンをつくるということで、先ほど1次のビジョンづくりはどうだったかということ、若干説明があったが、私どもの役割としてはそこから得た課題は何なのかということ、最初に確認をして議論がスタートできたのかなと思う。色々あったが、3つ明らかで、1つは安曇野の観光の交通の問題をどうするのか、今日も二次交通や上高地からどうするのか、山の麓からどうするのかという話があった。1つは観光交通をどうするのかという課

題が1つ出された。2つ目は宿泊。松本、白馬を踏まえ、宿泊の関係と安曇野の観光の関係でどう取り組んでいくのかというところは課題だということが出てきた。最後の3つ目はシニア、ジュニアというところ。どうしてもこれまではシニア層を中心とした観光に人気があるということ。そこは新しいヤング、要するに観光に呼び込んでくる層のことを課題とし、そこから議論をし、その辺は最低でも今回の議事のビジョンづくりには反映する必要があるのではないか、というところを、1回目、2回目ぐらいには確認させていただいた。そういった観点では、3つのことに関しては、これから取り組みですけれども、ビジョンの策定という観点からは網羅されていると評価しても良い。その辺のところを入れ込みながら、柱1、2、3で、観光は生き物で、スピード感を持って、持続可能な観光地の形成という哲学と言いましょか、観光の文化を柱1で謳わさせていただいたということ。柱2、柱3は外からどう入れ込むのか、外からだけでなくして、内側の我々市民がどうやって観光に取り組むのかというところも大枠ではあるが、柱1、2、3を仰ぎながら今後の10年やって行こうところで、構成させていただいた。私どもの今日までの6回の目的とここでやるべきものに関しては、具体的に検証するといったところでは網羅できているかと思っている。色々時代の変化等あるが、7か月ではありましたが、これを縁に、今後も各委員方、ビジョンの推進にあたってより良くしていくために、今後も口を出して関わっていただけたらと、私がお願いをする趣旨では少し外れているかもしれないが、何のためにするかというと、私どもの住まいの観光を良くしていくために、また引き続いてお力を貸していただくことをお願いして、この6回までのビジョンを1つの区切りにさせていただく。ご協力ありがとうございました。

今後に関しては、事務局に一任をさせていただき、先ほどありました議会等を経て2023年度、新年度の4月1日から実行可能な形に整えていく、という運びになっているので、改めて確認をお願いしたい。

最後になるが、アドバイザーとして最初から出席いただいた長野県観光機構の方からコメントいただき、本日の議事の進行を終わりにさせていただきたい。

〈長野県観光機構〉アドバイザーという視点で、参加をさせていただき、この会議が進んでいく中でも、色々話が合ったように、いろんな環境が変わっている中で、また今後もこの10年にかけて、おそらくいろんな波が押し寄せてくるのではないかと感じている。そのタイミングで今回作られていくこのビジョンが、非常に大きい役割を果たすのではないかと考えている。と言うのも、やはり潮流によって、ちょっとしたきっかけでお客さんがわーっと来る、あるいは松本市に来ていたお客さんがわーっとこっちにやってくるといった時に、我々が来てほしいお客様ってどんなお客様だったっけとか、そういったところに立ち返る1つの指針が皆様で共有できたのかなというところだと思う。皆様に限らず、市民の皆様が共有できる、より具体的な内容で落とされているビジョンになったかなと思っている。しかしながら、その潮流というのは様々流れが変わるし、柔軟に対応していかななくてはいけないという、表裏一体の状況になっていく。そんな時に、先ほど副委員長もおっしゃられましたけれども、1年1年でしっかりと振り返りをする、あるいは方向修正をかけていくということも、この中で心構えとしては、皆様で共有されたことだと思う。これは長野県の観光を進めていく中でも、非常に大事なことだと認識した次第であります。何よ

り施策を実施していくためのルールではありませんので、実際プレイヤーとの関わりですとか、広域の連携ですとか、そういった話がどんどん出てくる中で、柔軟に対応できる素地を作っていくという意味で非常に大事な取り組みだったとっており、我々県の観光機構としましても、その部分で十分にコミットできればと思っている。何はともあれ、実際にこれがスタートする上で、どのように進めていくかというところが今後重要になってくると思うので、また引き続き皆様のご意見を、我々としても拝聴しながら、一緒になって進めていければ良いなと思っている。1年間どうもありがとうございました。

4 その他

- ・観光課長より御礼のあいさつ
- ・その他事務連絡

5 閉会（副委員長）

※ 会議概要は、原則として公開します。

※ 会議を非公開または一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。